説明的文章 段落の役割・要旨の捉え方

1 なぜ、地震はこわいのでしょうか。

2 地震は突然くるから？ たしかにそうです。自然の災害は、地震のほかにも数多くあります。しかし、地震のように、なんの前触れもなく、突然おそってくるものは、ほかにはまずありません。

3 たとえば、台風は、何日もまえから刻々と予報がだされますし、実際に、何時間も前から風や雨が強くなって、危険の予告をしてくれます。土砂くずれや洪水でも、いきなりおそってくるというよりは、大雨のあととか、なにかの警戒のしるしがあってからおこるものです。

4 では、火山はどうでしょう。火山は地震に似て、いきなり人々をおそうことがあります。みなさんも、火山の噴火で多くの人が死んだり、古くはイタリアのポンペイのように、町ごと火山灰に埋まってしまった、といった被害のあったことを知っているでしょう。

5 □、火山は、たとえば、東京や大阪のまん中で、いきなり噴火が始まることはありません。火山の近くに住んでいる人たちは、十分、注意する必要があるでしょうが、日本のどこにでも、危険があるわけではありません。

6 これにくらべて、地震は、日本のどこがおそわれなくてすむのか、どこなら絶対に安全かということは、今の研究の水準では、残念ながらまだわかっていません。

7 ですから、地震は、いつくるか、どこにくるか、そのどちらもわからないうちにわたしたちをおそう、そういう意味では、たいへんにおそろしい災害です。

（島村英紀『地震をさぐる』国土社 による。一部表記を変えた箇所がある）

段落の役割と要旨

説明的文章を読むときには、各段落の文章中での役割に注目するとよい。

導入 話題提示 問い	話題に導く。話題を提示する。
根拠 具体例 答え	根拠を示す。例や対比を用いて具体的に説明をする。
まとめ 主張	説明をまとめる。筆者の主張を示す。

特に説明的文章では、「問い」を投げかけるかたちで**話題**が示されることが多い。「問い」と、それに対する「答え」に注目すると、文章の**要旨**（文章の中で最も伝えたいこと）を捉えやすくなる。

また、序論・本論・結論のまとまりにも注目するとよい。

・**序論**…話題を提示する。
・**本論**…事例や根拠を挙げて具体的に説明する。
・**結論**…内容をまとめる。主張を述べる。

（文章の構成の例）
・頭括型　**結論** → 本論
・尾括型　（導入） → 本論 → **結論**
・双括型　**結論** → 本論 → **結論**

例題

3段落について正しく述べたものを選びなさい。

ア 地震以外の災害について具体的に説明することで、2段落の内容に説得力をもたせている。
イ 地震以外の災害について具体的に説明することで、2段落の内容に反論を加えている。
ウ 地震以外の災害についても説明し、新しい話題を提示している。

〔　　〕

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) □に当てはまる言葉として適当なものを選びなさい。

ア すると　**イ** でも
ウ あるいは　**エ** つまり

〔　　〕

(2) 次の**A**・**B**はどの段落の内容を述べたものか。段落番号で答えなさい。

A 火山の危険は特定の場所に限られる。
B 台風や土砂くずれ、洪水は、発生の前触れがある。

A〔　　〕 **B**〔　　〕

(3) 本文の要旨として適当なものを選びなさい。

ア 台風や土砂くずれ、洪水などは、何らかの警戒のしるしがあってから発生する災害である。
イ 火山は、いつ発生するかの予測が難しいという点で地震に似た点がある。
ウ 地震は、いつ、どこで発生するかわからないため、たいへんおそろしい災害である。

〔　　〕